

日時：平成28年1月26日（火）午後7時30分から午後8時30分まで

場所：大和市保健福祉センター 5階 501会議室

出席者：委員7人：小林会長、横田委員、玉井委員、和田委員、芳沢委員、中井委員、友野委員

事務局6人：大矢健康福祉部長、目代健康づくり推進課長、石川健康づくり・がん予防担当係長、
金田保健師、萩原保健師、谷口臨時主事

【内容】

1 開会 司会：目代健康づくり推進課長、挨拶：小林会長

先週からインフルエンザの流行が始まり、非常にお疲れのところと思いますが、ご参加くださりありがとうございます。また、非常に膨大な資料を集めてくださりありがとうございました。滞りなく進めていきたいと思っておりますので、よろしくお願い申し上げます。

2 挨拶（大矢健康福祉部長）

本日は、大変お忙しい中、また、夜分にもかかわらず御出席いただきましてありがとうございます。日頃から先生方には、予防接種を始めとする市の事業にご理解とご協力いただきまして、誠にありがとうございます。

インフルエンザについて、先ほど会長からお話がありましたが、市内でも6つの小学校、11の学級で学級閉鎖となり、かなり流行ってきている状況です。

さて、予防接種ですが、近年、目まぐるしく変化しておりまして、昨年度は、年度の途中に水痘と成人肺炎球菌が定期接種化されました。おかげさまで、先生方の御協力により、大きな混乱なく実施できたものと考えております。改めて、感謝申し上げます。

来年度におきましては、新たにB型肝炎ワクチンの定期接種化についての検討が進められております。また、BCGの集団予防接種につきましても、全国的に個別接種が行われていることや市民の利便性の観点から、本市においても来年度からの個別接種化を是非お願いしたいと考えております。ご審議の程、よろしくお願い申し上げます。

3 報告 ○：委員、●：事務局

1) 平成25～27年度 定期予防接種（A類疾病）実施状況

- ・ ヒブ、小児用肺炎球菌については、生後2か月以降から開始して2歳までに4回接種するものの割合が90%を超え、制度が定着してきたことが伺える。
- ・ BCGについては、平成26年度の接種率が95%を超え、今後も維持していきたい。
- ・ 4種混合については、7歳半までに4回接種する者の割合が90%を超え、高い接種率を維持している。
- ・ 麻しん風しんについては、国の特定感染症予防指針においても95%以上の達成が目標に掲げられている。平成26年度について1期は95%以上だが、2期は95%を切っている。すでに、MR2期の未接種者に対し、就学児健診時や12月上旬に通知を行った。
- ・ 水痘については、平成26年10月より定期接種となったが、定期、任意とも多くの方に接種していただくことができ、ご協力ありがとうございました。
- ・ 日本脳炎については、各学年の接種率を見ると、1期、2期とも終了者が70%を下回る状況である。2月上旬に、中学2年生と3年生への特例の未接種者へ通知を行っていく予定である。
- ・ 2期ジフテリア破傷風について、年度ごとに徐々に接種率が低下し、各学年の接種率を見ても終了者の割合が低い。未接種者に対し12月上旬に勧奨を行ったが、現在、新中学1年生の保護者会に出向いて勧奨を行っているところである。
- ・ 子宮頸がん予防接種に関しては、積極的な勧奨の一時差し控えが続き、中学生はほとんど接種を行っていない状況である。

2) 平成25～27年度 定期予防接種（B類疾病）、任意予防接種実施状況

- ・ インフルエンザについては、ワクチンが4価となってワクチン単価が値上げされたことに伴い、今年度より市民の方の自己負担額を1,500円から2,000円へ変更したが、11月末現在の接種者数は15,152件で、接種率は昨年度と同程度であり、化血研の問題もあったが接種率への影響は少なかったと考える。
- ・ 成人用肺炎球菌については、平成26年10月より定期接種となり、昨年度の接種率は27.1%であった。
- ・ 成人風しんについては、昨年度と同様、費用助成を行っているが、流行もおさまり、接種者数は減少している。

3) らくらく予防接種登録者数について

- ・ らくらく予防接種の登録者数は、平成24年12月の開始より登録者数が右肩上がりになっている。
- ・ 接種率への影響は、ヒブや小児用肺炎球菌を2か月から、4種混合を3か月からなど適正な時期に接種を開始することに効果がある可能性があることがわかり、神奈川県地域保健師研究発表会で口演する予定である。

4) 平成26・27年度事故報告について

- ・ 重大な健康被害につながるおそれのある事故は、平成26年度以降発生していなかったが、本日、成人用肺炎球菌で1件、有効期限切れのワクチンを接種するという報告があった。
- ・ 直ちに重大な健康被害につながる可能性が少ない事故は、平成26年度は30件であり、ヒブと小児用肺炎球菌の接種間隔や回数誤りが多く見られた。平成27年は、12月末現在で9件と大幅に減少した。年度当初にカラーの事故防止のパンフレットを送ったり、事故の内訳を示したこと、また、先生方のご協力により大幅に減少できたものとする。
- ・ また、3種混合ワクチンから4種混合ワクチンへの切り替えに伴い、回数や接種間隔の誤りが若干見られた。
- ・ 事故ではないが、日本脳炎の特例対象年齢より後の年齢、平成19年4月2日以降に生まれた方が、1期の対象年齢（7歳未満）を過ぎてから接種するケースが見られた。この方たちは来年度から9歳になり、1期で接種できなかった分を2期の時期に接種できるようになる。来年度より医療機関や市民へ通知を行う予定。
- ・ 副反応報告が昨年度2件、今年度2件あがっている。コッホ現象事例報告は、昨年度2件、今年度は、平成27年12月末現在ですでに3件あがっている。

○：誤接種に関して、完全にゼロにならない頭の痛い問題だ。日本脳炎の1期が終了していない方には周知しているが、1期と2期の間の年齢についてはどうするのか。今日、初めて知った。

●：特例対象年齢より後の年齢の方たちには、9歳まで待つて接種するようには言えず、自費で受けるか9歳まで待つか方向を示している。9歳になった時に1期の残りや2期の間隔が法律でも決まっていない。この年齢は来年度9歳になるので、その時に周知していこうと考えている。

5) その他

(1) イモバックスポリオ®皮下注の有効期限確認について

- ・ 昨年春に、有効期限切れのイモバックスポリオ®皮下注を接種したという報告がいくつかの自治体からあがったが、大和市は0件だった。日頃より、先生方に予診票にワクチンの有効年月日を記載していただいていることにより、事故を未然に防ぐことができたと考えている。こちらについてもご協力ありがとうございました。

(2) 神奈川県子宮頸がん予防ワクチン接種後の健康被害支援制度について

- ・ 子宮頸がんワクチン接種後の継続的な痛みなどの症状について、国において救済制度の審議が止まった状況であったが、平成27年8月3日より、神奈川県で医療費及び医療手当を給付する制度が開始された。
- ・ 大和市では1件、定期接種となる前、国のワクチン接種緊急促進事業で接種した方が申請し、給付が決定した。
- ・ この県の健康被害支援制度は、国及び医薬品副作用被害救済制度（PMDA）の審査が再開されたことに伴い、

12月末までの申請をもって終了となった。

○：今、子宮頸がん予防ワクチンについて、国の方では話がどこまで進んでいるのか。

●：痛みの専門医療機関が整備され、厚労省と文科省で共同して県において相談窓口が設けた。また、追跡調査についても終了している。健康被害の救済制度の審議も始まり、おそらく世論の動きを見て再開されると思われるが、再開の目途は立っていない。

(3) 子どもの予防接種・乳幼児健診 広域化について

- ・平成27年7月に、大和市、海老名市、座間市、綾瀬市の4市の医師会より、希望する医療機関のみ実施すること、帳票及び予防接種の委託料は各市統一しないことを条件に、広域化についての提案があった。
- ・8月には、4市の予防接種及び乳幼児健診の担当者が集まり会議を行い、課題を検討してきた。
- ・今後、現在行われている市外協力医療機関を徐々に拡大していく方向で、現在、調整を進めている。

○：今のところ4市だけで、相模原市や藤沢市へも広げる予定はあるか。

●：現在、近隣の相模原市や藤沢市へも拡大していくよう調整を行っているところである。

(4) 行政手続きにおける特定の個人を識別するための番号の利用等に関する法律への対応について

- ・平成28年1月より、予防接種分野を含む社会保障分野において個人番号の利用が開始されている。
- ・予防接種に関しては、現在のところ、予診票へは個人番号を記載せず、予防接種番号を今まで通り使用する。ただし、健康被害救済制度における医療費等の支給に係る請求書に個人番号を記載することとなり、すでに実施されている。
- ・今後、平成29年1月より、予防接種に関する記録の市町村間連携が開始される予定であり、おそらく、市民の方の転出入に伴って予防接種の接種歴も紐ついていくことになるようである。詳細が決まり次第、お知らせする。

(5) 大和市予防接種実施報告書及び請求書の変更について

- ・平成27年12月のご提出分（11月実施分）より、より迅速かつ適正に協力医療機関への委託料支払処理を行うため、実施報告書及び請求書が変更になった。お手数をおかけしますが、ご協力をお願いします。

4 議題

1) 平成28年度予防接種事業計画について

- ・来年度の事業計画について、ワクチンの種類については今年度と変わらないが、BCGについては個別接種としている。
- ・B型肝炎ワクチンについては、平成28年度以降に定期接種化の予定だが、現在のところ、国からの通達はないので、事業計画には載せていない。詳細が決まり次第、お知らせする。

→ 平成28年度予防接種事業実施計画について、委員全員より承認された。

2) BCGの個別接種化について

- ・来年度からのBCGの個別接種化について、夏ごろより小児科の先生にご意見をいただいて検討を行ってきた。
- ・来年度の協力医療機関の希望調査では、全部で19、市外7医療機関であった。
- ・個別接種化にあたっては、事故防止のため、看護師や事務も含めた研修会を定期的で開催したいと考えている。また、BCG集団接種がなくなることにより、児童虐待のハイリスク児をかかりつけ医以外の目で見つける機会がなくなるため、研修会等を通じて医療機関同士の連携を図っていく必要があると考えている。

- ・ コッホ現象について、昨年末に受診した方がいて、12月後半は接種を避けていただくよう、市民や医療機関にもご協力をお願いしたい。

(1) 児童虐待について

- : 児童虐待に関して、医療機関同士連携を図っていくということだが、怪しいと思ったケースについてどこに情報をあげればよいか。例えば、要保護対策児童協議会で把握している家庭の情報は、個々の医療機関に降りてこない。どういう形での連携を考えているのか。
- : 予防接種の場で虐待が疑われるケースがあった場合、直ちに命に係わる状況であれば先生方にすでに対応していただいているが、相談という形になると家庭児童相談室、乳幼児期については母子保健がアプローチしやすいので、どちらにしてもすすく子育て課へご連絡いただきたい。
- : 全数訪問は生まれてから2か月までで、BCGはその後になるが。
- : ただ、4か月児健診、8か月児健診、1歳6か月児健診、3歳6か月児健診、いずれも未受診者に対しては手厚く訪問を行っている。
- : 虐待に関して言えば、多くの人が見て気が付くものであり、BCG集団接種の場がある程度機能していたとしたら、個別接種となった場合、その点は期待できないのではないか。

(2) コッホ現象について

- : 先ほどのケースについて、保護者は集団接種時に看護師から説明を受けたがうわの空で聞いていたとのこと。接種翌日に接種部位が腫れたが10日後にクリニックを受診し、年末の28日に市立病院の救急外来を受診した。検査はできたけれど、判定は日をおかなければならない。もし、陽性だった場合、喀痰検査ができない。排菌していないことがわからないと他の人に会えないので、正月は人に会わずに家にいるように伝えるしかない。集団接種の日程を決めるときも、年末の最後の2週は避けるように依頼していたが、個別接種となると各クリニックに対応が任されてしまう。年末まで営業しているクリニックで接種すると、コッホ現象が起きた場合、市立病院では対応ができない。例えば、12月に接種した場合は委託料をお支払いしないとかできないか。
- : 各医療機関や保護者に、12月中旬以降の接種はできれば避けるよう、予め注意をしていただきたい。
- : 明確に、わかりやすく、腫れたらこうするなど。
- : 保護者に、カラーのチラシを配布することを考えている。
- : チラシは渡されても読まない、何かしらの説明がないと。
- : BCGだけは、年末20日までに接種する。本来、4種混合の3回目とBCGの同時接種が理想的だが、年末は4種混合を先にやっておいて、BCGは後にするか、または、どちらも後にするか。4種混合の1期の接種間隔が8週間までなので、そこに間に合うか。
- : BCGの標準的な接種時期が5か月～8か月未満なので、その中で接種していく必要がある。

(3) 研修会について

- : 手あげした医療機関に対し、研修して修了証を渡したり、更新のための研修会等を考えているか。
- : 通常だと開始当初に1回説明を行っているが、事故予防や他のワクチンについての話もあるので、担当としては年に1回は研修会を行っていきたいと考えている。
- : 研修会を行っている横浜市の小児科で、思い切り肩に接種されてきた子もいた。そういうのはどうしたらよいか。
- : 現在、BCG集団接種に来ている、もしくは過去に来られた先生がいる医療機関は、14程度。
- : 研修会は1回きりではなく、これから定期的にやっていく方向で、検討をお願いしたい。
- : 研修会に参加する医師は、代表者一人でもよいのか、接種する医師全員参加とするのか。横浜市では、研修会に参加した医師しか接種できない。
- : これまでの予防接種は、代表一人の医師に参加していただき、そこから他の医師に伝達してもらっていた。

- : BCGについては事故予防という観点もあるので、研修会までに検討して、ご相談しながら進めていきたい。

(4) 医療機関での接種体制について

- : クリニックで看護師は何人必要になるか。説明する人と押さえる人、ワクチンを準備する人で3人くらい必要か。
- : クリニックではそんなにスタッフはいない。予防接種につくのは1人か2人、担当が行って、医師が説明する。
- : 押さえる人とワクチンを準備する人、あとは事務を信じている。
- : うちが3人体制。
- : 他の予防接種と比べて、準備に注意が必要であるし、説明をしっかりとしないといけないので大変かと思う。
- : コッホ現象については、毎回説明を入れておいた方がよい。
- : 今は他の予防接種についても話をしないといけない。肺炎球菌も発熱のリスクはあり、どの予防接種も説明義務があるはずである。BCGも同じような対応で伝えていかないといけない。
- : 例えば、午後の接種の時にワクチンを溶いてどのくらい置いておいてもいいものか。
- : 詳しくは、研修会でご説明できるよう準備しておく。

(5) 同時接種について

- : 同時接種をするのか。BCGはアジュバントが強くて、発熱のリスクがある。
- : 外国では、生まれてからすぐB型肝炎などともに同時接種する、東南アジアとか。同時接種に関しては、原則、接種してはいけないものはない。
- : 横浜市大のセンター病院では、BCGを含む同時接種を行い2週間発熱が続いたというケースがあった。他に原因が見つからなくて、それが原因だったのかなど。そういう例は多くはないが、気をつけないといけない。
- : これから新しいことを始めるので、どういったことが起こるのか注意深く見ていく必要がある。自己判断せずに報告していく。
- : ヒブなどが定期接種化されて、導入当初、発熱の報告が続いたので、BCGについても同じことが起こりうる。

(6) 個別接種化に関する各市の状況について

- : 国としては、個別接種が流れなのか。
- : 以前は、集団接種が主流だったが、日頃の体調のわからない先生が集団で次々と接種し、健康被害が起こった。市民サービスの観点からも、個別接種の流れではある。
- : 集団だとその日に行かなければならないということはあるが、当時はまだ予防接種の種類が少ない時期であった。現在、ヒブや肺炎球菌、4種混合と、かなりハードになっている。ハードになると個別接種でも流れ作業になってしまう。今のBCG集団接種はチェックもしっかりして、問診もしっかりやって、リスク回避ができていていいやり方だと思うが、集団接種を見直す話はないのか。今後、B型肝炎ワクチンが入ってくると煩雑になり、間違いが多くなってくるとはでないか。
- : 神奈川県ではBCGの個別化が進んでいるのか。
- : 個別化が原則で、できない市が集団接種として残している。4月から川崎も個別になり、2市ぐらいが残っている状況である。

→平成28年度からのBCGの個別接種について、委員全員より承認された。

3) その他

①成人用肺炎球菌予防接種について

- : 個別通知を現在行っていないが、接種期間が決まっており、うっかり終了した人に対して救済はないのか。
- : 今のところ救済はない。5年後に国が対象者を見直すことになっている。

- : 5年後に対象者になるかもしれないと言ってもよいか、お金の問題もある。おそらく5年後には65歳だけになるかもしれないと言い切ってしまうてもよいか。
- : そうとも言い切れないので、ご対応をお願いしたい。
- : 65歳だと元気なので、今後、対象年齢も変わってくるのではないかと。
- : 受けられる時期に、最低限の免疫をつけておくことは大事である。逆にいうと、70歳、75歳も元気な人は元気である。高齢者は呼吸器に対するリスクも高い。本当に肺炎になったときには遅いし、人工呼吸器をつけるときに肺炎球菌と分かることが多かった。受けられるときに受けてほしい。

②日本脳炎2期の通知について

- : 2期DTについて予診票を入れて通知をしているが、日本脳炎2期について予診票が入っていない。来年度からは予診票を入れてほしい。
- : 来年度の小学3年生は本来の2期の時期に2期を接種するようになるが、1期終了していない方もいて、その方の予診票が異なる。
- : 来年度から予診票を入れておいていただけると効果的である。
- : 検討していく。

③海外での接種、海外からの転入者について

- : 海外で接種した予防接種の記録をそのまま医療機関に持ってくる方がいるが、母子健康手帳の再発行など対応を教えてください。
- : 7歳半未満の方について、窓口に来れば、すすく子育て課で母子健康手帳を再発行し、そこに海外での接種歴を健康づくり推進課の職員が書き写している。7歳半をこえる方は、健康づくり推進課で予防接種の記録という紙を出し、そこに職員が書き写している。窓口にくればこういった対応ができるが、どの方が外国籍の方かわからないので転入者に対して通知を行うことができない。こちらをご案内していただければ、対応はできる。
- : 他の先生方はどうしているか。
- : 私も一度、窓口に行って何を接種すればよいか確認してからくるように紹介したことがあった。
- : 海外の予防接種の記録は細かい字で書いてある場合もあって、医療機関では忙しくて対応できない。間違っって接種した場合はどうなるか。市にお願いした方が、間違いなく接種できると思う。
- : 何のワクチンか、わからないときもある。
- : 海外で接種したワクチンに関して、日本の定期接種として認めるか認めないかは医師と保護者の判断による。海外で接種しても効果がないとなれば、もう一度接種することは可能である。例えば、中国で生後8か月に麻しんを接種することが多いが、日本では1歳未満に受けたものに関しては効果がないと言われているので、1歳過ぎてから再度MRを受けるようこちらでもお勧めしている。
- : そういう相談のサービスがあるとは、知らなかった。ぜひ周知してほしい。

5 閉会

以上